

住吉神社



10月15日に近い日曜日に、大字麦原の住吉神社で奉納されています。

住吉神社の獅子舞は、秩父の薄村（現在の小鹿野町両神薄）の諏訪神社から伝わったとされます。

五庭（演目）構成で、「四方掛け」に始まり、獅子が花園に遊ぶ「花掛け」、雄獅子と雌獅子が探し合う「飛抜け」と続き、雄獅子が戦う「雌獅子隠し」で山場を迎えます。最後に獅子宿への感謝を込めた「一つ花」を舞って終了となります。



八幡神社

10月第2土曜日・日曜日に、大字津久根の八幡神社で奉納されています。

八幡神社の獅子舞は、成瀬の諏訪神社の祭礼に奉納されていたが、江戸時代の享保年間（1716～36）に、津久根の人形芝居と交換して始められたと伝えられています。

青竹に注連縄をかけて舞う初庭「七五三掛け」、雄獅子同士が争う中庭「四幕抱き（志満久多喜）」、和解した雄獅子と雌獅子とともに舞う終庭（後庭）「花掛け」の三庭（演目）からなります。



越生の獅子舞

獅子舞は、日本のお祭りや新年の行事で見られる伝統的な舞いで、厄払いや豊作を願うものです。

越生の獅子舞は、いずれも神社の秋祭りに奉納されます。

今月号では、越生町の4つの獅子舞を特集します。

梅園神社

10月第4土曜日・日曜日に、大字小杉の梅園神社で奉納されています。

飯能市高山の三輪神社より伝わったとされ、氏子区域の大字小杉、堂山、上谷下組の3地区の氏子で構成される獅子舞保存会が伝承しています。

五庭（演目）構成からなり、獅子宿での「庭摺り」の後、境内に移って「一つ回り」、「三つ回り」「雌獅子隠し」と続きます。見所は終いの庭「白刃」で、両手に太刀を持った雌獅子が舞う三番叟です。



東山神社



「勤労感謝の日」に近い土曜日・日曜日に、大字上野の東山神社で奉納されています。

室町時代の頃、多門寺住職の教伝が、秩父地方から習得した獅子舞を伝えたのが起源とされています。

「宮参り」「すっこみ」「花掛け」「竿掛け」の4庭（演目）が演じられ、ほかに「願獅子」が奉納されます。谷間に見立てた竹竿を挟んで獅子が舞う「竿掛け」は、越生では唯一行われる庭です。

また、竹のササラを掻き鳴らす四人の「ささらっこ」を、男の子が務めるのも特徴です。

